

発言者	発言要旨
	■開会
	<議事> 熊本市文化芸術推進基本計画(素案)について 事務局説明
西島委員	パリオリンピックで、ベルサイユ宮殿が馬術の会場となった。ベルサイユ宮殿は伝統的な場所、国を象徴する場所、市民や国民に愛されている場所であり、五輪を通じて歴史の偉大さを再確認できた。熊本市でも、熊本を象徴する「熊本城」を使ったユニークベニューのような取組をしつかりやっていってほしい。熊本城のユニークベニューが「都市文化力の向上」の項目に入っているのはとても良い。
喜久山委員	従来は文化財を守る、異分子を入れてはいけない、といった考え方であったが、最近では、様々なカルチャーを混ぜ合わせていくことで活性化させるという動きがあるように思う。熊本市内にある様々な財産を、溶け合わせたりつなげたりすることで、新しい魅力が相乗的に出てくるのではないかな。
小堀委員	・文化財は保存と活用で対峙しがちだ。例えば、今後、熊本城の天守閣で飲食を伴うレセプションをしてはどうかというアイデアがある。防火等の対策をしたうえで、もっと幅広く活用していく方向性が必要ではないか。 ・夏目漱石は4年半近く熊本に住んでいたにもかかわらず、「松山市」のイメージが強い。横井小楠は福井のイメージ、小泉八雲も松江のイメージが強い。熊本の漱石、熊本の八雲を位置づけたい。小泉八雲は来年のNHK朝の連続ドラマの対象でもある。せっかく有名な偉人がいるのに、PRが足りていないため、文化都市としての熊本市を全国的にアピールしてほしい。
喜久山委員	ユニークベニューについて、あまり知識がないので「もっと開放的にしたらいいのに」と思ってしまうのだが、実際には多くの条件や制約があるのだろうか。
小堀委員	制約はあるが、文化庁の方針が変わってきており、できるだけ活用するような方針にも進んでいる。 例えば国宝である二条城は、イベントに使ったりしている。先進的な他都市の規定等を参考に研究していくことが大事。文化財の維持にもお金がかかるため、稼げるコンテンツとして活用を考えることも大切。
喜久山委員	福山城では宿泊できるという話も聞いた。このような文化財は、城が持っている品位を考えると、活用はデリケートなところがあると思う。
浪床委員	・それぞれの価値の位置づけが、広く共有できておらず、一部の限られた人しか共有できてないのが現状。本質的な活用・発信をするためには、新しい価値の発掘・調査研究がベースになってくる。 ・事業例は、計画に表記されるということか。
事務局	具体例を掲載したほうが分かりやすいと考えており、事業例を掲載している。現在、市が取り組む重点事業と、関係団体が既に実施している事業を掲載しているが、今後7年間の計画となるため、担当の関係各課と相談し、何を掲載するか決めていく。
浪床委員	市民としては、実現の可能性や予算措置も気になる。目標とはいえ、事業例とするのか、事業案とするのか。
事務局	実際に取り組む事業を掲載予定だが、財政局との協議もある。その中でこの事業の実現が難しいというものがあれば掲載しない方向性もあるが、現時点ではいずれも取り組みたいものを記載している。

発言者	発言要旨
石櫃委員	・プラットフォームが重要な役割を担うのだろう。孤立・孤独の解消や食文化の記載もあり、文化部門だけでなく、全庁的に取り組むことが記載してあるのは良い。予算の話もあるが、文化単体での予算ではなく、文化を市の大きな柱として、全庁的なものとして取り組んではどうか。推進体制とプラットフォームは大切だ。 ・部活動の民間移行について、文化の部活動も民間移行となるだろうが、講師派遣といった専門家等の人材の確保が大切であり、行政のほうでも検討が必要ではないだろうか。
嘉悦委員	事業例もこのようなことが行われるとよいが、予算が決まってから具体的な事業が決まり、実働していくのか。
事務局	事業例で記載している事業は、実際に実施しているものだ。(情報発信や広報が不十分なのは課題だと思っている。)新たな事業となると、市役所は1年ごとの事業となり、新規事業をする場合、来年度実施する事業を記載することになる。3年後、計画の見直しの際に新たな事業が組み込まれることになるだろう。
嘉悦委員	文化にアクセスしやすい環境づくりについて、先日ラジオに出て「もっと熊本の人々が熊本のアーティストを応援してほしい」と伝えた際に、「どこでライブ情報を収集すれば良いか」と聞かれた。気になるアーティストを検索することはできるが、例えば「今日の夜時間が空いたな」というときに、検索してもライブ情報が出てこない。興味をもっても先がつかないと思った。 一方、福岡は今日・明日というボタンや、エリア、ジャンルなどの情報で検索ができ、今日行きたいという時に対応できている。イベントだけなら熊本にも調べられるサイトはあるが、もう少し細かく検索できると良い。
西島委員	障がい者・高齢者・こどもといった文言を散りばめてあるが「若者」という表現はどうか。こどもたちは育成と次世代を担い重要であるが、現実には文化を担っているのは若者である。例えばストリートアートプレックスのような活動は、若者が自分たちで担っているものであり、こうしたものも取組の中に記載してはどうか。一般からすると、若者はつかみやすい表現だ。検討いただきたい。
喜久山委員	文化の考え方は二層あり、専門的・学術的な文化と、一般市民の文化があった。しかし最近はこちらを関係づけて活性化させる動きがある。また、メインカルチャーとサブカルチャーの関係も怪しく、どちらがメインかも分からなくなってきた。 私は美術教育をしているが、最近のこどもたちは、メインとして掲げているものからの影響ではなく、イラストレーションやアニメーション、マンガというサブカルと呼ばれる領域から影響を受けて造形を学び始めている。かつて二層に分かれているものをどうつなげていくか、また文化を経済として考える際、ある種のブレイクスルー(従来にない方法によって突破すること)を仕掛けていく必要があるだろう。
狩野委員	こどもたちのところについて、一番重要なのは「教育機関と連携し～」というところだが、学校の授業としてホールに出向いたり、アーティストや伝統芸能の講師を派遣する、また授業の中での鑑賞や創作活動に加え、学校が行う文化庁の学校公演の取組も入るのではないかと。学校は予算や時間の制約があり、なかなか取り組めていないところもあり、学校によってムラがある。文化庁の情報や予算的支援があると、学校公演も広がっていくのではないかと。
小堀委員	次世代を担うこどもたちの育成は最も重要なポイントだ。部活動ではなく地域サークルに移行したり、合同でコンクールに参加したりしている。全国大会への旅費支援については、喫緊の課題だ。例えば、高平台なかよし合奏クラブは全国大会で札幌へ行かなければならず、旅費のほか、練習会場の確保、移動など、学校単位でやっていたときにはなかった負担が出てきている。こうした文化芸術に関連する整備も非常に大事だと思う。
喜久山委員	環境の整備について、今はどのような環境整備が必要だろうか。
西島委員	熊本市文化協会をしているが、部活動と地域連携がひとつのテーマだ。学校の先生がこれまでしてきたことをどう地域の力を借りて取り組むかが課題。地域のインフルエンサーがどこにいるのか、どのような活動をしているのかの情報が集まってこない状況だ。数はあるだろうが単発で、情報を一括化できていないため、バラバラに取り組んでいる印象がある。熊本市というより、区役所や現場で働いている人のところから情報を集めていくことが大切だ。

発言者	発言要旨
喜久山委員	インフルエンサーについてなるほどなと思った。この委員会に来て、私が知らない情報を知ることが出来ている。こうした情報を集約できるシステムがあると、かなりの影響力があるのではないかな。
浪床委員	計画を改めて読んでみて、多岐にわたり、市民が「これはどういうものか」がイメージしづらい印象がある。例えば、熊本市の施設がいくつかあるが、色々な活動の拠点施設を計画の中で位置づけるのはどうか（歴史であれば熊本城、アートだと現代美術館など）。市の施設も、これはどういう施設かが分かりづらく、利用者が減っている一面もあるのではないかな。様々な分野の拠点施設を明記することで、具体的に見えてくるもの、伝わるものがあるのではないかな。
喜久山委員	・フラッグが立つと、先程のインフルエンサーが集まる場所にもなりそうだ。 ・これだけ多岐にわたると、全体が茫洋としてしまうため、焦点を絞ったほうが良いのではないかな。全体を同じレベルで推し進めるのか、象徴すべきものが周りを引っ張るような進め方がいいのか。（一過性かもしれないが、熊本市が目指す方向を示すカンフル剤としてのイベント開催等）。
小堀委員	熊本市が他都市と比べてアドバンテージがあるのは、歴史、古文書だ。一般市民の生の記録が大量に残っているのが、他にないユニークな点。熊本大学で研究が進んでいるが、眠っている古文書がまだまだあると思う。しかし、熊本には県立も市立でも文書館（もんじょかん）がない。高知県には文書館があることを考えると、そうした整備は進めても良いのではないかな。邦楽も盛んだし、和の文化をもっと中心に置いても良いだろう。
西島委員	・古文書は、内部では研究が進んでいる。熊本市でも専門家を置いて、もっと取り組んではどうかな。その第一歩として古文書館の整備はどうか。熊本市の歴史資料が日の目を見られるようにしてはどうか。 ・計画を策定する際に目玉は必要だが、色々な分野があるため1つを取り上げるのは難しい。むしろプラットフォームを明確に示されたことが、徹底するというメッセージではないかな。プラットフォームが今のところぼんやりしているため、ここをもっと膨らませて書いてはどうか。例えば人やモノ・カネ・情報等の分野をどうするのか、先程説明のあった令和10年度を目途にしているというのは、かなり思い切ったことだと思う。
喜久山委員	美術では2000年代から、美術館は殿堂として学芸員が研究する人という位置づけだったが、美術をこどもたちや次の世代に伝えたり、関心を持たせたり、そのような企画展示をする美術館が増えてきた。研究室に籠もって研究活動をしてきたキュレーターが、人を呼ぶための企画をする必要が出てきて、混乱が生じた。欧米の美術館学芸員は、どうやって市民が美術館に来て満足度を得るかを基本にしている。 古文書館は、私も研究活動の資料収集を目的に行くが、面白みやエンターテインメント性、「歴史を掘り起こすのは楽しいね」と伝えるのは足りていないところがある。文化芸術領域で市民に提供していくためには、研究者ではなく、これを世間や市民に広げるだけのプロデューサーが必要だろう。
浪床委員	熊本に重文や国宝など色々なものを持つてくる力のある学芸員が必要だが、そのような人がいない。受け皿となる、熊本市内でもたくさんの人脈のある学芸員や研究者等、プロデューサーを育てていく必要がある。
喜久山委員	横断的な施策Ⅰの事業例は案なのか、具体的な事業として進んでいるのか。
事務局	この事業については新規事業もあるが、実施していきたいと考えている。文化顧問の日比野さんは東京藝大の学長でもあり、東京藝大とも連携して取り組みたい。具体的な内容は協議中であり、記載内容は変更になるかもしれない。
喜久山委員	対話型鑑賞については、美術教育でも取り立たされているが、どういった経緯で入っているのか。
事務局	対話型鑑賞について、現代美術館でも何度か取り組んでいる。それを今後事業化するかについては、財政部局との調整も必要だが、効果があると考えているため今後取り組んでいきたい。

発言者	発言要旨
石櫃委員	プラットフォームのイメージ図で、各分野における専門のコーディネーターがいて、各団体や市や市民とつながることになっているが、コーディネーター同士の横断性も大切だ。それにより情報の収集・発信が効果的にできる。横の連携が重要であり、プラットフォームがこれからの文化を支えていく大事なところになるだろう。食文化や孤独・孤立の解消など、プラットフォームを大きいイメージで取り組むことが大切だ。サブタイトルにもつながるだろう。
浪床委員	プラットフォームと推進会議の関係はどのようなものか。
事務局	推進会議はプラットフォームとは別物として設立したい。推進会議は計画の進捗管理、課題の検討等を行う会議体を考えている。一方、プラットフォームは文化の活動者をつなぐ組織である。どういった組織が効果的なのかについては、これから研究していきたい。
浪床委員	プラットフォームは、推進体制に入っていないということか。
事務局	はい。ただし、今後仕組みができあがったら、推進会議と連携していく部分もあると思う。
西島委員	・プラットフォームはもっとボリュームを含めて記載してほしい。専門のコーディネーターについては、文化財の専門委員など学識のある人が、マトリクス型で入ると良いのではないかと。 ・文化については、確定しても固定化しないほうが良い。ころころと変わってしまうのもどうかと思うが、各分野にいる専門家を固定せずにあらゆるところから集めたい。
喜久山委員	コーディネーターは、具体的な人物像が想像できているのか、これから発掘していくつもりなのか。
事務局	どのようなコーディネーターが必要かなど、決まっていない状況。
喜久山委員	プラットフォームの人材について、ボランティアなのか、報酬を支払うのか。
事務局	ある程度の報酬は必要だろうが、そのあたりも検討したい。
山下委員	・情報伝達手段としては、SNSを含む口コミが根強いので、通りや広場といった屋外公共空間を活用してほしい。 ・「食文化」が入るのは、美味しいものがある熊本らしさも強調できるのではないかと。 ・プロデューサーとコーディネーターの間の呼称があればと思う。他都市で、プレイヤーをプランナーと呼ぶようになってから、プラットフォームがとても機能するようになった例がある。
喜久山委員	サブタイトル案について、各委員の意見を聞きたい。 ⑤の「生命」のワードは重たいように思う
石櫃委員	①がいいと思う。
嘉悦委員	④が計画の内容に沿っていていいと思う。
浪床委員	「まち」という言葉が入るといいと思っている。 「人をつくる、まちをつくる文化芸術」などいかがか
小堀委員	浪床委員の案に賛成。 ②にするならば、「大事に」より「大切に」の方が語呂がいいと思う。
狩野委員	③がいいと思う。「ウェルビーイング」の意味がわかりづらいという意見もあるだろうが、個人としても・社会としてもいい状態を目指すということで「一人ひとりのウェルビーイングを見つける(またはめざす)」がいいと思う。
西島委員	①に追加して「人がつくる、人をつくる、まちをつくる文化芸術」はいかがか。
山下委員	浪床委員の案に賛成。

発言者	発言要旨
喜久山委員	「人とつくる、まちをつくる文化芸術」という案が多いようだが、「まち」はどのような字にするか
複数人	ひらがな
喜久山委員	「人とつくる、まちをつくる文化芸術」ということでよろしいか
全員	承認